

令和4年度 第2回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日時 令和4年7月28日（木曜日） 15時から17時10分まで

（新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、WEB上での意見交換による開催）

出席者 佐藤委員、蛭川委員、藤田委員、高江洲委員、杉田委員、神作委員、中村委員、中島委員、安井委員、北川委員

欠席者 花形委員

傍聴 3名

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長外川 他4名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料確認</li> <li>次第</li> <li>資料1 令和4年度相談支援従事者指導者養成研修会（国研修）受講報告</li> <li>資料2 各検討チーム報告</li> <li>資料3 私たちが目指す相談支援専門員の姿 Ver. 7</li> <li>参考資料 専門コース別研修標準カリキュラム（国要綱より抜粋）</li> <li>記録のため速記者の方が参加をしていること、会議の内容の録音についてご了解いただきたい。また、傍聴として、指定研修事業者が参加している。</li> <li>本日も新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、Web会議で実施をしている。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回の検討会の資料公開については、議事録要旨と併せて検討会の後確認をお願いしてから公表するということでした承いただきたい。</li> </ul>
各委員	(異議なし)

2 検討事項

(1) 令和4年度相談支援従事者指導者養成研修会（国研修）受講報告

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回、国研修を受講された委員と事務局の職員に報告を願いたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1の報告を見ていただきたい。8ページの自治体職員コースについて、ここでは概要の報告をしたい。</li> <li>今年度の国研修は、事前研修、研修、年度末にフォローアップとして振り返りをする構成となっている。事前学習では3時間の講義動画の視聴をし、その後6月29日、30日、7月1日の3日間、Zoomで双方向のプログラムがあった。</li> <li>初任者研修や現任研修という研修種別ではなく、テーマ別で四つのコースに分かれていた。資料については、国立障害者リハビリテーションセンター学院のホームページに掲載している。</li> <li>自治体全体会で沖縄県、長野県、横浜市からの実践報告があり、また研修の取組について情報交換をするというグループセッションがあった。</li> </ul>

	自治体研修コースからは以上となる。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問等については、まとめて実施するので報告を全て伺いたい。次は、委員から、高江洲委員、北川委員、神作委員の順番で報告をお願いしたい。まずは高江洲委員、お願いします。</li> </ul>
高江洲委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメント基礎コースに参加した。</li> <li>・初任者研修と現任研修のつながりのところで、演習だけではなく実習も込み込みで、地域の実習も研修の一つである。それも含めた研修というところを強く強調されていた。</li> <li>・初任者研修のところで、都の研修ではエコマップとかジェノグラムをそこまで説明をしていないところも丁寧に行っていく必要があるのかなと改めて気づいた。</li> <li>・個人的な感想だが、今回、国研修に初めて参加し、全体的な研修の流れなど学びがとてもあったが、当事者が初めて研修に参加するということで、東京都の流れや、国全体の流れなど把握していない中でやるのは結構大変であった。</li> <li>・事前課題から研修本番までの時間もタイトで、今後東京都で検討委員会から当事者が出席となると相当負担がかかり、国の研修の主催側も研修に出てくださいというところも、うまく精査して出るような形がいいのではないかと個人的には感じた。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、北川委員、お願いします。</li> </ul>
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・去年に引き続き、地域づくりコースに2年続けて参加でき、非常に学びが深まったという自分の中での大きさはあった。</li> <li>・地域づくりコースは、主任相談支援専門員の研修の中身のところが中心に講義なされた。</li> <li>・報告には、印象的だった図を載せさせていただいた。こういう図を使うと、初任も現任も主任、さらに基幹と委託の主任の役割の違いも見やすいのではないかとこのところ</li> <li>・また、ケースメソッドによる初任、現任、主任の地域課題のレベル分け図についても、こんな形で示すと、初任の関わっていくべき点、現任が関わっていくべき点、主任が関わっていくべき点というのが見えやすい。</li> <li>・もう一つは、時系列における事例の地域課題づくりの提示で、左から時系列に沿ってどんどん人が加わっていくということが示されている</li> <li>・地域によって分かりやすい見え方があるので、工夫してこういうふうに初任、現任、主任の役割の違いみたいなどころと、主任が意識してする仕事というところで見えやすくしていく必要があるのではないかと。</li> <li>・都研修と関連づけて考えたことについては、地域づくりでは理念や理論、基礎知識はもちろん大事だが、それを受講者に知識として根づかせるためには、具体事例を熱く語れる人が研修講師になることが望ましいだろうということ。熱く理論を語れる人のほうがいいのではないかと</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立支援協議会や基幹相談支援センターが形骸化しているというのは、全国でも多々あることで、それを話題にしても先に進めない。基幹や協議会の在り方というのは国がきちんと提示している。基幹がないから協議会が活性化していないからということにこだわるのではなく、ご当地ならではの地域づくりをしていくことが大事</li> <li>・ 協議会と基幹の在り方はきちんと外さないで説明をしなければいけない。ないことやできていないことにこだわらずに、前を向けるような研修づくりにしていくこと。</li> <li>・ 主任相談支援専門員については、特定や委託に所属している人が増えていて、国研修で、その役割をはっきり明示することはされなかったが、それも同じようにその地域ならではの在り方をきちんと作り上げていくことが大事。主任相談支援専門員にとっては自分の地域での在り方を考えることが大事なことであるということを伝えられてきた。</li> <li>・ 講義内容、理論の部分はほぼ去年と変わらない。去年、難しかった理論の部分をさらに易しく説明していて知識と理解が広まった。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 続いて、神作委員、お願いします。</li> </ul>
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材育成コースに参加した。初めての国研修ということで、高江洲さん同様、タイムスケジュール等の提示がなく、3日間、どのように進んでいくのかという見通しが立たず、すごく不安を抱えながらだった。</li> <li>・ 人材育成というのは、地域実習のところをどのように進めていくかというものを考えていく根本になるような話だった。</li> <li>・ また、スーパーバイズ（以下「SV」という。）がなぜ必要か、今回の研修を受けて私の中ではっきりした。実践値を養い、熟達化するための実務実践の場面での取組を実地教育とするという説明があり、相談支援専門員という力を高めていくこと、そして、相談支援専門員として、活躍していくということの中には、どのように熟達者になっていくのかというところが、何か個人的な学びであり、そこだけではやはり難しいので、実践知を高める。その実践知という実践に関する知性を高めるというためには、SVという手法を用いるのがいいのではないかというお話。</li> <li>・ 伝達されたことを都研修と関連づけの考えと合わせての報告ではあるが、この実践知を養って熟達化するためのSVというのを、なぜ取り入れるのかということをやっぱり広めていく必要があるのではないか。</li> <li>・ 社会福祉の実践というのは正答を一つに定めることが難しい業務、実践知の獲得には個人差が生じてしまう。だから、それを人とSVをして話をする、そういう考え方の中で養っていくことが、今行っている初任者研修、現任研修の中でそのような視点をどう取り入れていくのか。広めていくのかということが必要と思った。</li> <li>・ 傾聴を使ったSVの技術について、その技術をどのように高めていくかという</li> </ul>

	<p>このために、事例に沿ったロールプレイをとにかく繰り返すということ。ロールプレイをして、それがなぜそのようなことが起こるのかという振り返りをし、さらに深めていくというこの繰り返しをしていく中で、スーパーバイザー側の力量を高めていく研修の内容だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中でも、SVを実施する前、やるとき、終わった後の振り返りと3段階に分けた形での視点の大切さがあるという話がとても印象に残っている。</li> <li>・初任者研修、現任研修でSVを取り入れる上では、その方がどんな人なのかというところまでの事前の準備というのは、多分相当難しいが、事前にあらかじめイメージをしておくということができるのではないかな。</li> <li>・実施をしている最中は、焦点を決めるということがあり、SV、スーパーバイザーの人とどのような考え方や価値観を吟味していくのかということ、焦点をきちんと決めておく。例えば初任者研修の中でそれがもし取り入れるとしたらそれはスーパーバイザー側のほうが本人中心の計画が立てられているかという焦点、あるいは個別性を尊重した計画になっているという、そういった焦点をあらかじめ決めておくということは一つできる、取り入れられるのではないかな。</li> <li>・SV後の振り返り期、1回で終わりではなくて、その後の期間を設けて振り返りができればということ、実習という形でSVを受けるということをやったのであれば、その地域でのつながりをせっかく設けた中で、それをどのようにつなげていくのかをプラスで考えられると、実習の意味合いというのがもっと高まってくると思った。</li> <li>・最終的には、SVの文化を広げていくという話があった。</li> <li>・今は区市町村に向けての説明会の中で、実際にスーパーバイザーをしている地域の方たちに直接的なSVの話というのはできていないところがある。それを、東京都の相談支援専門員ネットワークの主任ネットというところで埋めていただいたりということがある。スーパーバイザー側の力量を高めることを東京都としてどのように取り組めるかについて、今回の研修を受けて、さらに考えて難しいと思うところ</li> <li>・個人的には、SVの技術を磨くというところに徹底した2日間であり、それをまた皆に伝えていくという役目も担えればと思った。</li> </ul> <p>人材育成コースからの報告を以上とする。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に濃い研修であったことがご報告からは受け取れる。委員の皆から何か質問等はあるか。</li> </ul>
各委員	(発言なし)
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、実習が研修の一部だということをしごく伝えられたんだなということが分かった。北川さんが話していた事例を語れるということは、最後の神作さんが話していたSVに直結する話かと思った。</li> <li>・スーパービジョンが障害領域は足りていないと思うところがあり、実習に学生を出すと、医療領域はかなりスーパービジョンの体制が構築され、どのように</li> </ul>

	<p>事例を振り返るなど、かなりシステムティックにどこの病院に行ってもできる形になっている。それがいいか悪いかは別として、どこの病院に行っても、学生に対してそのようなことを振り返りができるということは、学生が自分のこの態度がいいのか、この取上げ方がいいのかということを常に振り返られるということが、医療機関においてはすごくシステムティックと思う。高齢者の地域包括支援センターもかなり振り返り、事例を振り返らせるということは多いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害領域は、これから相談支援のところでしっかりと体制構築をしていくという必要性があると感じ、報告を聞き、ぜひ研修の中で少しずつ歩を進められればと思う。</li> <li>・それでは、国研修の報告は、以上とする。</li> </ul>
--	--

## (2) 各検討チームからの報告

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、検討事項の(2)各検討チームからの報告をお願いしたい。</li> <li>・今年度の検討会では、昨年度から引き継がれた内容について、検討事項に合わせ三つのチームに分かれて検討いただいているが、第1回を終えて、各チームの中で検討いただいたと思う。検討内容について報告を頂戴したい。</li> <li>・それを踏まえて、各チームの報告だけではなく、報告された内容を全チームで共有化していくのが今年度の目的となるので、それを共有した上で互いの検討チームの中で不足している部分、今日は初任の実習のところから意見を頂戴したかと思うし、いろんな意見を賜りたいというところで、最後の議論、意見交換を十分時間を取りたい。</li> <li>・それでは、蛭川副委員長、藤田副委員長、中村副委員長の順番で報告をお願いしたいので、まずは研修内容の整理というところで、蛭川副委員長、お願いしたい。</li> </ul>
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理チームの報告をさせてもらう。まだ1回しかできていなく、しかもどんな整理をしたらいいのかと、ゼロベースの意見交換から始まったので、今日意見をいただいて、さらにどう整理するか繋がったらいいかと思う。</li> <li>・先日の話しでは、整理チームに出されたお題として、この研修を俯瞰して整理をすることだったので、どのように俯瞰するのか委員の意見などを出してもらった結果、研修はそれぞれが独立しているわけではなく、初任から現任、主任までどうレベルアップしていくかのストーリーがあるはずなので、そのレベルによって研修の中身がどうなっているかを整理していくことが、このチームに課せられたことであると課題整理を行った。</li> <li>・では、何をベースに整理するのかと考えたときに、軸や基準になるものをどこに求めたらいいのか分からなかったが、東京都の研修の目的というのは、この目指す姿を達成するためにあるのだらうと考え、目指す姿の右下にある研修の仕組みに含まれている、研修受講者に求められている力というのがステップ1</li> </ul>

	<p>から5に分かれて、初任から主任までどういったレベルアップや必要な力が求められているのかについて、すっきりまとめられていたので、これをベースにしたかどうかという話になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度チームで取り組むこととして、成果物があったほうが良いと意見が出たものの、具体的にどんな成果物にしたらいいかとの結論は出なかった。ひとまず各研修でどんな方法でやるのか、ツールを使って何のためにやっているのかについてステップ1から5をベースにして、整理をしていこうというのが次やるうとしていること。</li> <li>・他のチームから意見が欲しいことは、一つ目は、今何をベースにしたらいいかというところで、まだ確定途中だが、ストーリーの資料は何を参考にしたらいいか。要は、レベル別の中身の参考になるものは、どこをベースにしたらいいかというところ。</li> <li>・チームの会議では杉田さんから、主任研修資料のコンピテンシーの一覧表のようなものも参考にできるかとの話が出ていたが、私は国研修の北川さんの報告を見て、相談支援のレベルと地域づくりとか、ケースメソッドを1から見たかったという部分も含めて、すごく参考になるのではと思ったが、その辺りをこういうストーリーをベースにしたらどうかとの意見をもらえたらと思う。</li> <li>・二つ目は、それをどういうふうに整理、反映していったらいいか。つまり、成果物の出し方として、相談員の目指す姿は、北川さんたちのグループがこれからVer.8との形で整理していくので、研修の整理の仕方を整理するときどんな成果物にしたらいいか</li> <li>・三つ目は、ストーリーの見せ方。目指す姿を参考にと言ったが、目指す姿では、初任から現任で演指研があって主任と矢印になっているイメージがつけられている。私は主任研修を経験していないので、そうレベルアップしていくものなのかとと思っていたが、チームの会議の中で、主任研修の目的や役割を確認した後には、資料にも勝手に書いた表があるが、一方通行の矢印ではなかったというのが初めて分かった。</li> <li>・特に初任者にしたら、矢印の表を見たら、スキルアップは一方通行しかなく、主任は遠い存在というイメージがつくと個人的に考えていて、なのでそうではないという図があれば、初任の人も主任を頼る意味というのが理解でき、自治体や企画側にとっても主任の役割や、皆が主任にならなくてもいい理由や、現任で経験を積んでスペシャリストになっていくことも尊いことなんだという部分も見せていけるのではないかと考えて、ではどういうものが良いか意見が欲しいと思う。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成してくれた図が非常に分かりやすいと思って拝見している。</li> <li>・全体を報告いただいた後に共有化する形で質問、意見交換にしたい。続いて実習のチームの検討内容について、藤田副委員長お願いしたい。</li> </ul>
藤田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域実習を支える仕組みづくりのチームで報告する。</li> </ul>

- ・我々のチームは、これまで2回の打合せ会議をしてきているが、メンバーが4人、それから事務局の方に加わっていただいて、これまで4区市の現状の報告をした上で課題を抽出してきた。4区市から現状報告があった内容だが、地域実習ということで現任研修の話題を中心に報告をいただいた。
- ・課題として整理したことは、実習対応者の不足、実習対応者の水準の違い、その辺りが見えてきた。実習対応者に向けて実習の目的などの理解の促進をしていかないと実習自体がなかなか難しいだろうといったところも見えてきている。
- ・各自治体にいる主任相談支援専門員の役割、どういうふう主任の皆さんに、今後実習に関わっていただくかの仕組みづくりも課題かと思う。
- ・各自治体によって主任相談支援専門員さんの背景が違う。北川さんの報告にもあったように基幹、委託、民間の方といった背景の違いによる、いわゆる実習の対応者としてのお願いのしやすさもある。
- ・これまでカリキュラムが変わって、2度ほど実習対応してきているが、やはり予算が厳しい中での無報酬による民間への依頼も課題。実際に手当があれば対応しやすいという意見もあった。
- ・相談支援専門員にとって地域実習が本当に効果のあるものになっているかといった検証も必要だろうということ。花形さんが活動されている小平市でアンケートを取ったとの報告もあった。今後、地域での実習が行われた際の受講者、行政の担当している職員、実際に実習を対応された実習対応者の皆さんに対してのアンケートを実施していく必要がある。
- ・初任者研修における実習対応時、これは5 p i c s、ニーズ整理票といったツールを使っているが、この理解と取扱いについての課題も出てきている。実際に初任者研修の実習では、アセスメントの習熟度を見るために、実習対応者の皆さんに対応していただくが、対応している方が本当に5 p i c s やニーズ整理票を理解できていないと対策が必要になってくるのではないかと。
- ・初任者研修の実習対応のほうが先になるで、こちらの準備を今始めるところ。
- ・市区町村の行政職員の相談支援従事者研修に対する理解度も非常に重要かというところ。やはり実習対応してくださる方が十分理解が必要なわけだが、区市町村の職員の方が理解していないと、この実習もきちんとできないのではないかと課題も出てきている。
- ・今年度は杉田さん、中島さんが区市町村説明会に出て説明をしてくださっているが、今後必要ではないかということが課題として出てきている。
- ・ただ、単独でやっていくのは難しいかもしれないとの意見もあった。各区市町村に、例えばこういった実習に対する説明ができるようなアドバイザーがいればいいのか。もしくは、圏域アドバイザーみたいな形で配置できれば、行政の負担も減ってくるかもしれないし、質の担保といった部分でも対応できるのかといったところもある。

- ・今年度チームとして取り組むことだが、まず日程的に初任者研修の実習対応をどうするかを最初に取り組んだほうがいだろうということで、拠点機関向けの実習ガイドの作成に取り組んでいくかとの話になっている。なかなか文字、紙ベースだけの理解は難しいかと思うので、演習指導者研修やファシリテーター説明会、それから動画なども使いながら、この辺りの実習に向けての、いわゆるガイドの作成をしていきたいとも思っている。
- ・それから、現任研修でも上がっていた、いわゆる実習の効果の検証。これもアンケートを実施しながら行政職員、実習担当者、受講者それぞれが受講のどこまで研修の中身が理解できたかを検証できるアンケートの実施もしていきたいと考えている。
- ・報告書の中で上げた初任者研修の実習受入れに向けての対応案として、今出ている案としては、初任者研修のファシリテーター説明会を動画にして、東京都として配信する案、それから拠点機関、行政職員向けの説明会を実施していく案。これについては、時間を分けて午前にはファシリテーター向けの講義、午後には拠点機関及び行政機関向けの説明会を実施するといった開催、それから初任者研修のファシリテーター説明会の中で併せて開催する方法なども考えている。
- ・実際に動画を作成、配信することによって対応できた場合には、その講義とか説明会の内容の変更、ボリュームを調整し、後から見られるような方法なども検討しなければならないとの話も出ている。
- ・それから、動画配信が難しい場合、これは東京都でそれが可能かどうかも含めて検討が必要だが、難しい場合には、その動画自体をDVDにしながら各行政のほうに送って対応してもらおう案も出ている。
- ・説明会の中で併せて実習の説明会を開催するに当たっては、初任者研修のメインファシリテーターの方との役割分担、打合せも必要になってくると思うので、この辺りも検討しておかなければならない。以上の案が難しい場合には、東京都の相談支援専門員ネットワークに協力を依頼しながら、協働して実習担当の方の質を上げていくような体制づくりを進める案を、私たちのチームで考えているところ。
- ・他のチームから意見が欲しいことということで、既に前年度の初任者研修チームが解散してしまっているが、この地域実習の対応者の到達点をどのくらいに想定していたかをチームのほうで聞いておく必要があるそうと考えている。
- ・また、先ほども話したように、動画が配信可能になった場合には、説明会の内容は非常にボリュームがあり、タイトなスケジュールを組んでいるので、動画配信が可能になった場合にはその説明会の内容、ボリューム調整をしていいのか、その必要があるのかといったところも意見を聞きたい。
- ・初任者研修、現任研修ともに実習対応者の不足が課題になっているので、主任相談支援専門員が積極的にファシリテーターになってもらうために皆さんが考



	<p>えていることがあれば、ぜひ意見をもらえればと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の研修受講者がSVを担当していただくことで、実際に前年度やっているので、研修の内容や実習の目的なども理解できていて、なおかつその経験年数の近いピア的な先輩相談支援専門員とのつながりができるといった意見もチーム内で交わされたが、本来の基幹、拠点、中核的人材の意味を踏まえ、他の委員の皆さんの考えか聞きたいところである。</li> <li>先ほどの神作さんの国研修の報告を聞いて、地域の実習の仕組みづくりを考える中で、受講者が自分のスキルをどう研鑽していくかを焦点にしてきたわけだが、熟達化という言葉を使うのであれば、実習を担当していただく方のスキルを上げる一つの機会にもなるかとも思う。実習担当者を地域に増やすという意味で、ぜひ何かうまい活用方法がないかと思ったところである。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>こちら意見が欲しい課題が幾つか出ているので、また後ほど頂戴したい。</li> <li>人材育成チームについて、中村副委員長の報告をお願いしたい。</li> </ul>
中村副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月6日に第1回の打合せを行った。人材育成とは、研修だけで終わらせるのではなく、東京都全体の相談支援の人材を育成するという幅広い目で見なければならぬ。自由な意見を出し合いながら、国研修の報告を含めて、これらを基にまとめた。</li> <li>課題の4点を整理した。 一つ目は、人材育成ビジョンに関すること。二つ目は、主任の役割。三つ目は、実地研修。四つ目は、官民協働についてである。</li> <li>一つ目は、東京都の相談支援専門員のあるべき姿において、「都内の各地域格差はあるもの」と捉えなおすことで、都内でも各地域差はあるものだという新たな視点で捉え直し、ご当地ならではのありべき姿・地域の強みを活かす人材育成ビジョンを示す必要がある。</li> <li>二つ目は、それぞれの立場で育成の視点を主任相談支援専門員自身が意識していく必要がある。主任になったからといって、役割をしっかり意識しているかについては疑問が残るところもある。</li> <li>三つ目は、実地研修について。前段でも様々な議論があったが、実地研修には地域全体で育成し、底上げをしていく意図があること。地域を耕していくことがひいては、共生社会の一環になるという実習の受入側や市町村の理解の下に、行われなければならない。</li> <li>地域に散らばる相談員にも、実地研修はみんなで行っていくものということ浸透させていく必要がある。今はそのことが研修に関わっていない相談員には浸透しておらず、実地研修を受け入れる相談員にも、技術や視点がきちんと伝わった上で行われているか疑問もある。</li> <li>みんなが底上げに関わり、実習の受入れに参加していくことが地域に貢献していくこと。それをきちんと仕組み化していくことが必要であると思われる。</li> <li>4点目は人材育成について。人材育成を行う者の確保、体制整備、これら全て</li> </ul>

に官民の協働が必要

- 私たちの話合いでは、区から事業者に実習をお願いするときに、遠慮してうまく伝えられないというような迷いなども聞かたり、また、研修実施後のフィードバックがうまく行われていないということも上がってきている。
- 余談だが、私が所属している区においては、主任相談支援専門員の活用もまだまだされていない。実習を受けるのも「第2層」と決まっているが、今回、一方で余計なお世話とは思いながらも、チャレンジというか、私のほうから区の支援課に「実地研修を行う人材が第2層の中で不足する場合には、地域に散らばる主任相談支援専門員がいるので、ぜひ依頼してください、力になります。」と、お話ししてみた。
- この際、区の係長さんからは、実地研修を「第2層」に依頼する行政としては遠慮があったので、そういうことも含めて今後考えていこうかというようなお話も戻ってきて、もしかして地域での主任の活用への小さな兆しになるのではないかと思ったりもした。
- 突き詰めていけば、私たちの仕事は地域住民が全て対象であり、地域を巻き込んで行われていくものである。重層的、複層的な困難ケースの存在は、行政にとっても頭を悩ますものであり、私たちが実地研修などで研鑽していく内容は、自治体の職員の利益にもなっていくという視点で、官民協働を取り組みやすいものとして進めていけたらという話題が上がった。
- 人材育成チームとは銘打っているが、研修に携わる人材の育成と確保のチームになる。私たちは、新たな視点で捉えた育成ビジョンを検討していく。地域差はあるものとしてとどまるのではなく、いま一度地域の在り方は地域でつくっていくという視点で、ビジョンを作り上げる、作り直す。
- そして、これからの人材育成に関わる部分を言語化していく。先ほどほかのチームからは可視化という言葉が出てきたが、私たちの中では「言語化」という言葉を一つのポイントにしている。どんどん言語化していき、V e r. 8に向かっていければ、分かりやすく見せることができる。
- 育成段階のピラミッドと書きましたが、そのような見えやすいものがあると、よりイメージしやすいのではないかと考える。
- 今までV e r. 7をつくるに当たっては、今までのメンバーの方たちが本当にいろんな議論を積み重ねて、作り上げたものなので、単に新しくする、追加するものとして考えるのではなく、幅広く検討していきたい。ほかのワーキングチームと十分に連動し、新たなV e r. 8をつくっていきたい。
- 先ほど言語化を大事にしていると言いましたが、この生きた言語のチョイスは、感度を持っていきたい。生きた言葉を大事にしていきたい。
- 立場による役割の再提示というのはほかのチームでも上がっていたが、初任、現任、主任、委託、基幹等、いろいろな立場があるが、連動しながらも、その立場ならではの役割があるので、それらをしっかり整理して言語化していく。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一つには、二つの相談支援専門員の活躍が分かるものにしたい。1点目は、誰しにも、私たちの役割、活躍のしどころが何に役立つのかが分かるもの。2点目としては、自分たちの活躍がどうやって地域に生かされていくのかが分かるものを整理できたらと思っている。</li> <li>・意思決定支援については、現バージョンでは、暗黙の了解で含まれているとされているが、明確に提示して、絶対不可欠な項目であること、役割であることを、V e r. 8の中では表すことも上がった。</li> <li>・新たな視点で捉えていくというところでは、どの質を上げていくのかということもある。国研修にヤングケアラー、ケアマネとの連動、触法の方の支援といった様々な視点が改めて上がっていた。そういった視点もどう取り組めて、表せて、行動していけるのかといったこともある。</li> <li>・ほかのチームから意見が欲しいこととしては、逆発想での視点の共有。地域を見なければ地域に必要なものが分からないということ。以前は目指す人材があり、地域を見るという視点だったが、逆に地域を見て、そこから私たちが育成されるべき内容を知っていくことについて、共有していきたい。</li> <li>・次に、これから実地研修に協力していく地域の相談員の方や行政の方、市区町村の方にとって、必要な言葉、行政へのアピールや連動したくなるキーワードは何かということについて皆さんにアイデアをいただきたい。</li> <li>・第6期障害福祉計画」のことも頭に入れ、新たな指標の意識をしながら、仕組みづくりの皆さんとうまく連動して実現に向けていければと思う。</li> <li>・三つのチームが共有しながら、さらに整理して、第3回目に向かっていければいいと思っている。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各チームからご報告をいただいたので、意見交換とさせていただきたい。</li> </ul>
中村副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの報告の中で、「主任は貢献型」という言葉が出てきたが、協力者や市区町村にとっても必要な言葉。V e r. 8に向けて言語化していくのにピントが合うようなキーワードとして参考になった。</li> <li>・主任の役割がなかなか現場、地域ではまだ生かし切れていないので、「貢献型」という言葉が研修や実地研修の中に入ると分かりやすい。</li> </ul>
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆さんの発表を聞いて、自分の気持ちがまた熱くなってくるのを感じた。</li> <li>・結局、三つのグループとも折り重なっているという感覚があり、特に地域実習と人材育成とは全く離れないものということ。</li> <li>・興味が湧いたのはアンケート。受講生や実習対応者にアンケートを取る上で、東京都全体として書式をそろえてやっていくのか。それとも、地域の実情によって地域実習のやり方も異なるので、地域で作っていくのだろうか。その辺りで、区市町村の理解を求めることは必須であり、説明会も開催して、さらに動画で色々な人に向けて説明を繰り返しできるようにするというのもとてもいいと思った。</li> <li>・ただ、この地域実習は、こういうものです、だから、やってくださいと、手取</li> </ul>

	<p>り足取り、パッケージ化されたものを渡してやってもらうというのではなくて、そこまで懇切丁寧にやるものではない。地域の民間と行政が、主任相談支援専門員が協働して、地域の人材育成の体制を作っていくきっかけにするというか、地域実習を使って体制を地域に作っていくということが大きな目的というか、裏目的だったりもする。その機会を捉えて、我が町は人材育成の体制を作っていくという機運を高めていくような仕掛けが、地域実習のところではあったらいいのかなと自分の感想としては思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ そうなると、人材育成があつて地域ではなく、まず地域を見てどのような人が必要なのか、逆転発想みたいなのところも、まさにそのとおりだと思った。感想ばかりで申し訳ないが、すごく熱いものを感じたということを書いたかった。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今、杉田委員のおっしゃられた内容は、まさに実習チームから意見が欲しいところの中の2点目や3点目に関連してくるところだと思った。</li> <li>・ ここから30分ほど、皆さんからご意見を頂戴したい。</li> <li>・ 中島委員、今までのご発言、ご報告等を踏まえて、ご意見頂戴できればと思う。</li> </ul>
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国研修も、チームのまとめをされた皆さんも本当にありがとうございました。杉田さんが熱いと言ったが、どのポイントで何を話すかという辺りが、今、整理がし切れていない状態である。</li> <li>・ ただ、国研修の資料と報告と、今回のそれぞれのチームの報告はすごくリンクしているというのが一つと、国研修の資料を読むと、やはり実習と研修の連動性からも、実習対応者が研修自体を分かっている人が対応しないといけないという、強いメッセージがあつたと思う。</li> <li>・ 地域の人材育成の仕組みづくりの中でも、研修の担い手であるファシリテーターや、私たち検討会協力者と地域実習をどうつなげていくか。または、地域実習者としてファシリテーターをどうやって生み出していくか。あとは官民協働というのはここ最近ずっと言われてきていて、報告の中でも出ているが、まさにこの検討会自体が、おそらく民間と行政をつなぐ接続部分の役割であると改めて思った。</li> <li>・ アウトカムのアンケートの話題も出たが、私が杉田委員と一緒に東京都相談支援専門員ネットワークで現任研修の地域実習のサポート研修を主任ねっ都で担っている。今回スーパービジョンのフォローアップ研修を実施した際に、参加者から今年度5月に行った市区町村説明会の効果性が高かつたという意見が聞かれた。今年度の現任研修終了後にアンケートを取ればもう少し結果が出ると思うが、実際頑張って実施した成果はあり、着実に地域の中ではじわじわと広がってきているものはある。民だけに頼っていても広がらなかったと思っているので、心障センターや私たち検討会の委員がどのようにつなげていく仕組みをつくって、仕掛けていくかということがすごく重要だと思う。</li> <li>・ 今後も民だけでやるわけではないし、行政だけでやるわけではないので、先ほどの実習チームであつたような動画の配信や説明会との抱き合わせにもつなが</li> </ul>

	<p>ると思っている。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ありがとうございます。続きまして、安井委員、お願いできますでしょうか。</li> </ul>
安井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 私も話を聞いていて、盛りだくさんというところで、どこから手をつけていくのかというところが非常に悩ましい。全部できれば一番いいのだけれども、時間も限られている中で、何を優先順位としてやっていくのかというところが見えてくるといいと思った。</li> <li>• 例えば、昨年度に比べて今年度は、区市町村説明会を開催したというところで大きな前進。今の進め方としては、いい方向だと思うので、これを切らずに少しずつ前進をしていって、雰囲気が変わってきて、区市町村もせねばみたいな感じになるといいのかなと思った。</li> <li>• 実習チームの中でいろいろ思うことも言わせてもらったが、結局は、人材育成だと思う。ファシリテーターをする人もいつも同じなので、次のファシリテーターの担い手をどう開拓していくのかというところも非常に大事なところ。</li> <li>• 今日出ている課題も含めて、今後に向けて明るい話もたくさんあったので、まずは優先順位をつけながらどこからやっていくのか。行く行くは人材育成というところで、地域で支える仕組みができればというところでの的が見えてきたらとてもいいのかなと思った。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各チームでお話いただいて、かなり細かく出てきていることはたしかですので、盛りだくさんかなと思うが、この1回、2回で解決する問題ではないので、コンスタントに話し合いを継続したいと思う。</li> <li>• ただこの時点で、最初の蛭川副委員長がご報告くださった内容の中で、他のチームから意見が欲しいこととして3点出ている。その中でもどの部分を一番チョイスしてご意見いただきたいのかというところを、私からすると、いわゆる各研修のストーリーをつくっていく中で、どういう資料が参考となるのかというのは、まずキーになっていくのか。そこを土台にしながらどういうふうに進めていくのか。</li> <li>• その辺りについて先ほどコンピテンシーの一覧がいいのではないかとか、それ以外の部分のところでも、こういうのもあるのではないかと、もしくは今まで使っているものをよりこういうふうに広げていったらどうかというところでも構わないので、ご意見が頂戴できればと思う。</li> <li>• 蛭川副委員長、このような形でもよろしいか。</li> </ul>
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 皆さん、いろいろな研修に出られて、そこで得たことと、主任研修を受けられている方々で枠組みというか、レベル別というのを捉えるときに参考にしたらいい資料。北川さんの資料も最新で、すごく分かりやすいのかもしれないと思いつつ、こんなのもありましたというのがあれば教えてほしい。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 先ほど北川委員が出していただいた三角の図は、各研修の目指すべきところが複層的なものも含めてVer.7と照らし合わせても分かりやすく示されている。そこに向けて改変をしていくような感じになろうかなと思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピテンシー一覧というのも、いろいろな領域で対応されている形で結構細かく出ている。特にその辺りでのご意見はいかがか。</li> <li>・おそらく杉田委員は、そのコンピテンシー一覧のところを踏まえられた上で、いろいろと検討されているのかなというふうに思った。</li> </ul>
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで話したときには、そのコンピテンシーのところは話したが、今日三つのワーキンググループの話を知っていると、ストーリーの資料とかの見せ方は、もしかして要らないのではないか。成果物的なものについては他のグループでも示されるだろうから、私たちのチームとしては、人に伝えるときのストーリー性をもって語れる物語を整えればいいのかと思った。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの中村委員がまさに貢献型と言われて、今の杉田委員の意見を踏まえると、蛭川委員が作ってくださった貢献型の図は非常に分かりやすい図なので、Ver. 8のところ反映できるような形にできると、私たちもいろいろと説明ができる図解で、貴重な図なのかなと思った。</li> <li>・これをほかの、矢印の初任、現任、主任という一方の矢印はステップアップの矢印で、返っていくときの矢印がどういう力なのかというのを貢献型という波及の仕方、それ以外の力の返し方みたいなもの、そこに地域を見る目が入りそうな気もする。ほかのワーキングの方々にもこの図をヒントにしながら、検討いただくというのは、非常にいいのかと思う。この矢印の内容が何になるのかというところを今後の検討会で検討できればいいのかと思う。</li> <li>・地域実習の支える仕組みづくりのところ、一番私もお伺いしてみたいというのは、ほかのチームからご意見が欲しいことの四つ目のところ。前年度研修受講者がSVを担うことであるところの部分について、ご意見を頂戴できればと思うが、この辺り、神作委員は、どのようにお考えでしょうか。同じチームとして、ご意見頂戴できればと思う。</li> </ul>
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このチームで話をしていたときに、スーパーバイザーを担う人たちをどのように高めていくかという議論になり、先ほどからこの会議の中でも議論になっていると思う。</li> <li>・一つの案として、実習でスーパーバイザー側を体験した人が翌年はスーパーバイザー側を体験してもらえれば効果性が高まるのではという意見が出た。人の育成という中でも段階を追った育成、連動性のある育成になるのではないか。</li> <li>・また主任研修を受けた人は、主任はスーパーバイザーを含む役割だということ、強制的に求めてしまう方法はないだろうかというところから、出てきた意見だったと思う。いい意見だなと思いつつ、実行可能かというところは、ご意見を皆さんからお聞きしたい。安井さん、間違いはないか。</li> </ul>
安井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今おっしゃった通りで間違いはないと思う。</li> <li>・人づくりというところがどうしても大事だよなというところで、なかなか実習中では答えが出なかったから、皆さんからご意見を求めたらもう少し広がっていくのではところがある。</li> </ul>

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、神作委員、安井委員がお答えくださった内容を踏まえて、人材育成のところだという話が出たので、北川委員に、ぜひそこを絡めてお話しただけならと思う。</li> </ul>
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成は、人材育成する前、先ほど中村委員がおっしゃっていたように地域が分からないとその地域の必要な人材育成ができないのかなというところがある。人材育成チームはそれを考えた上で、自分たちのチームの話に変わってってしまうかもしれないが、三つの視点でつくらなければいけない。</li> <li>・一つは、戦略的に、いわゆる行政自体が相談支援とはというのが分かっているのではないか。行政の方は毎年人が変わってしまったりとか、説明会でも、何のために必要なのという話に戻ってしまったりとかする部分があって、行政によってもすごく差があるというところになる。まずは東京都の専門員像の中に、相談支援とは何ぞやというのをきちんと説明するものを1枚つくる。</li> <li>・2枚目は相談支援専門員の土台みたいな、今まである相談支援専門員像をきちんと載せる。</li> <li>・3枚目は研修の仕組みというふうにつくって行って、研修の仕組みというのは人材育成のところには当たるのではないかと考えている。</li> <li>・相談支援専門員像はあの中に全部詰め込むのは難しいので、ページを分けてつくと難しい。</li> <li>・あえて1枚目は行政へ向けての手紙的な、そういうふうには書かないが、理解してもらうために地域に相談支援専門員が必要だということを知ってもらうような手紙というか、メッセージ的なもの、相談支援とはという1枚目。</li> <li>・2枚目は今まである相談支援専門員像を作り上げてきたものを大きく変えることなくやっていくこと。</li> <li>・3枚目が人材育成へというところの、今ピラミッド型だったりという話が出ているが、それを明確化していくことをつくっていくということ。</li> <li>・今日も聞いていて、どことも切り離せない。自分たちだけでつくっていると、ほかのチームと連動できず、自分たちよがりのものができてしまう心配を私はしていて、これをどうやって重ねていくのかと</li> <li>・今、安井さんが聞いてくださった人材育成のところとなったときに、研修の仕組みでインターバル期間の捉え方というのは、人材育成チームだけでつくってしまうと、また違うものができてしまう。三つのチームを分けたけれども、リンクのさせ方がこのすごく難しく感じるが、その辺、皆さんどうしていったらいいとお考えか。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リンクについては、全てがリンクをしている前提にはなっているとは思いますが、最終的な結論を1枚のペーパーにつくるとかではないかと考えている。</li> <li>・ただ、バージョンアップしていく中で、蛭川副委員長がおっしゃってくださる、V e r. 7の一番下のステップの部分はステップ1から5のところまでは変えて</li> </ul>

	<p>いこうかなとか、あるいは人材育成のところでは、全体像を捉えたところで変更していこうかなというふうにやっている中で、検討会で検討しながら、修正をかけていくという方向になろうかと思うが、いかがか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あと2回でそれができるのかとも思うが、できない中でもバージョンを上げていく、一つずつステップアップをしていって、改変をしていくことでその段階のものができていく。今の検討会で検討されているものができていくのではないかと思う。</li> </ul>
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうすると、例えば今、人材育成のチームで3枚をつくらなければいけない段階にはなったかなと思っているところの、東京都の研修のしくみというところは、実は、各研修の連動性と内容の整理のチームがつくったほうが私はいいかかなと思ってしまうのですが。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全部を人材育成チームでつくるというイメージではなくて、それぞれのグループが話し合われたものがこの中に盛り込まれてくるというイメージと私は思っている。</li> <li>・もちろんもしかすると、ベースはその人材育成のところでは3枚つくるけれども、もともとできているものをバージョンアップしていくのは、各グループのところでは当てはまってくる部分もあると思うので、そこに入れ込んでいくので大丈夫かなと、まさに北川委員がおっしゃられたとおりにかなと思う。</li> <li>・なので、一番上の相談支援と地域のところで、東京都という地域と自分の地域の強みとか課題というのは、まさにここはもう少しボリュームが今後は増えてくるだろうと思わされる場所。それはこの間の話合いの流れの中で決まってくるのかなと思っている。</li> <li>・事務局としては、Ver.7をVer.8に上げる中で、最終的な落としどころとしていかがですか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局としては、皆さんと話し合えるのが、この令和4年度中ということがあるので、できればこの場で、今年度はここまで話しましょうかという見通しが立つとありがたい。</li> <li>・今、北川委員から一つの提案として3枚に分けたらどうだろうというお話があったので、例えば、チームで分担して取り組んでみましょうということが出来るのか。皆さんがどのように考えているか教えていただけたらと思った。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成のところではVer.8を全てやるということではなくて、各チームが検討されている内容を盛り込みつつ、最終的にVer.8を完成していく。</li> <li>・また、今回、三つのワーキンググループにあえて分けたのは、各研修が連動性をもって検討するという中で、研修ごとに分けてしまうと、そこがなかなか見えにくくなるので、この課題分けのグループで検討させていただいたという背景がある。</li> <li>・こういう形で毎回検討会をやって、課題を各グループでまた持ち帰っていただいてお話をさせていただくことで、意見を聞いていく内容がブラッシュアップさ</li> </ul>



	<p>れていくのかなと思う。そのブラッシュアップされた内容をVer.8になる図に落とし込んだりとか、文章にしたりとか、そういう方向をご検討いただく。事務局が各チームの中に入っているの、ポイントを絞っていただきながら情報共有をしていただければと思う。その辺りでお進めいただくということではいかがか。Ver.8は各チームの内容を盛り込みながら、どこか1チームがそれを全て完成させるということではないということをご確認させていただければと思う。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習チームの動画のところで、実現可能性についてはどの程度話されているのか。</li> </ul>
藤田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日この検討会後に、実習チームの打合せをする予定で、動画の実現性については、事務局の検討結果をご報告いただく形になっている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画を配信についてはまだ検討が続いているが、動画を作ることもそのものは、実習チームの方々にご負担をかけてしまうが、撮影はできると考えている。</li> </ul>
高江洲委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最終的に何に向かっていくのかが見えなくなってしまった。</li> <li>・ 市区町村の行政に向けた示したものと、地域実習を円滑にどう進めていくかと、研修の内容についてのところは分かったが、そこを「専門員の姿Ver.8」に落とししていくという捉え方になるということか。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そのようになる。</li> </ul>
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私は全体的にふわっとして、特に研修の連動性と内容の整理のチームが難しいと個人的に思った。</li> <li>・ 研修の仕組みづくりのところをもう少し広げて説明できればいいのか思ったり、北川さんの国研修の資料のようなスライドの図を作ればいいのか思ったり、蛭川さんの考えていたことと私も同じような感じで国研修を聞いていたしたので、「東京都の研修の仕組みづくり」のところをうちのチームが取り組むということが少し見えるといいかなと思った。それをまたチームに持ち帰って話すということでも良いのか。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国研修が進んできて、変化をしてきていることもたしかだし、自治体との協働、いわゆる実習が入ってきていることも含めて、Ver.7からVer.8に上げていく方向で今年度は検討をしたいところ。</li> <li>・ ただ、話をしていく中で、それぞれのチームが複層的になっているので、幾つか図を出していただいて、新たな形で図を出していただいたりですとか、国研修で持って帰ってきたものを入れ込めたり、どう東京都の図を作っていくのか、ステップ図や矢印の方向性が、もしかすると入り込んでくるのかもしれないということも踏まえて、正直、同じような形での議論が次回もあるのかと思っている。</li> <li>・ そこまで各研修のチームの方々のお話を進めていただくということをお願いしたい。</li> <li>・ Ver.7からVer.8に上げることを前提として、自分たちのチームのお話の</li> </ul>

	<p>内容にどこの部分が合致するのかも含めてお話し合いいただけると分かりやすくなるのかなと思う。</p>
地域支援課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話しを聞いていて、この Ver.7 というのは、目指すべき相談支援専門員の姿ということで、コンピテンシーそのものと思う。</li> <li>・価値というのが真ん中の左側にあるが、とてもよくできている。本人中心、社会モデル、エンパワーメント、権利擁護、地域に根ざす、いわゆる生活者の視点というところ</li> <li>・これが多分この初任、現任、演習、主任という研修を貫く共通の理念、コンピテンシー、目指すべき姿に連動してくると考えると、この五つの視点が、例えば一番上の態度や姿勢というところに反映しているか、あるいは一番右の技術というところと連動しているか、さらに言えば、今の東京都の仕組みというところに全て貫く理念として入っているか、そういったところを洗い直すという視点があると良いか思った。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まさに洗い直すという作業を今回する必要があるのかと思っている。</li> <li>・特に私は、地域ということを考えていくことが今期のすごく大きな役割かなというふうに思っている。相談支援と地域というところがもう少し大きな枠組みになっていくのかと思っている。</li> <li>・地域でどう暮らしていくのかを含めて、そこの中核を担う相談支援専門員の役割がどういうものになっていくのかを、ここで明確にできればとも考えている。</li> <li>・土台としては、この Ver.7 を Ver.8 にするという方向性で話し合いを進めることについて、各チームのご理解を得たということによろしいか。</li> <li>・第3回の検討会につきましても、それを踏まえてご意見をお出しいただいて、それについて意見交換ができればと思う。</li> </ul>
各委員	(了承)
(3) その他	
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に検討事項の(3)について、2点確認させていただきたいところがある。</li> <li>・1つ目が研修検討会と、各検討会の実施スケジュールについて、事務局からご説明いただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都では例年、現任研修、初任者研修、主任研修という順番で年間の研修を回しているが、受講者が非常に多いため、最初の研修は4月に入ったらすぐ動いている状況にあります。</li> <li>・一方、こちらの検討会は、5月の早くてもゴールデンウィーク明けの実施になってしまうので、研修の中身についてご意見をいただいたときに、どこから反映させるかが難しい実感を持っている。特に今年度の現任研修については、昨年度から今年度に流れていくところが難しく、検討会委員の方や協力者の方に負担をかけてしまったと思っている。</li> <li>・6月に実施される国研修についても、その中身をどの研修から取り入れるか悩</li> </ul>

	<p>ましく、事務局としては、今年の国研修で示されたことは、翌年度から取り入れる流れになっていると取りかかりやすいと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度の現任研修については、検討会としては令和4年度の最終回、3月の第4回の検討会で検討事項として上げて、5年度はそれを前提に行う形によるしいか。</li> </ul>
中村副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>やりたいが、タイトかなと思ったりする。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安要素はありつつも、考え方としてはありということによるしいか。</li> </ul>
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>主任研修は実施時期が遅いので、実際は国研修の内容を反映させるのがこれまでの流れだったかと思う。2年後近く先の反映になってしまうのは先になりすぎて懸念がある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度末に主任研修がある場合には、可能な範囲で取り入れたほうがよさそうということで、他の皆様もよろしいか。</li> </ul>
各委員	(異議なし)
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>2点目が、令和5年度以降に実施する専門コース別研修について事務局からの説明をお願いしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京都では、多くの相談支援専門員の方に知っていただきたいテーマで、これまで、ライフステージと意思決定支援をテーマに講義形式で専門コース別研修を実施してきた。</li> <li>来年度の専門コース別研修のテーマについて、対象者や講義形式で良いのかといった実施方法について、テーマについてご意見をいただきたい</li> <li>参考として、資料として国の標準カリキュラムを付けさせていただいた。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義にプラスアルファの演習を入れていかななくてはならないということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでは、講義だけだったが演習もあったほうがいいのか。東京都内の全ての相談支援専門員を対象にするのではなく、対象者を限定して実施したほうが効果があのではないかといったご意見を</li> </ul>
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考資料の標準カリキュラムから選ぶということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の要綱の中では、こちらを参考にテーマを設定して実施しなさいというふうになっている。</li> </ul>
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日で終わるのか。演習とかも含めて2日間になるのを選ぶのかによって予算が変わってくるということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>そのようになる。</li> </ul>
高江洲委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援専門員が対象であれば、初任者研修、現任研修、主任研修の内容に即した、先ほどの五つの価値の内容に即した演習も含めた専門的な研修があるといい。</li> <li>同時に講義だけでもいいので障害に特化したものとか、介護保険のケアマネとか、そういったものを交互にやったりすると良いのかと思った。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度実施するに当たってということで、実現可能性ということをどうしても考えてしまう。演習を入れた場合には、ファシリテーターが必要ということも含</li> </ul>

	めて検討しなければいけないと思うので、そこの難しさはあるのではないか。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで都の研修では受講者数が多いが、やはり数だけという結果は、研修効果としてはあまり良くないと私は思っている。それだけは、一言述べさせていただきたい。</li> <li>・今回の検討会でも出たように、相談支援専門員の質をどう上げていくかが重要であることからもうひとつのところには演習が必要だと思う。来年度に関しては致し方ないかとは思いますが、やはり演習ありきという前提で、質を上げていくことを考えていきたいと思った。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごもっともな意見なので、これはきちんと議事録に載せさせていただきたい。</li> <li>・時間がかかり超過してしまいまして大変申し訳ない。ひとまず全ての検討事項につきまして、ご了承いただいたということによろしいか。</li> </ul>
各委員	(了承)
6 閉会	
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日はふわっとした会議になってしまったが、皆様から貴重なご意見をいただいたことによって、東京都としても方向性が定まったかと思う。</li> <li>・ご迷惑をかけてしまう部分もあろうかと思うが、チームの中で分からない部分も出していただきながら、連動性のところで重なっている部分はしっかり入れていくことになると思う。ぜひとも貴重なご意見を次回も賜りたい。</li> <li>・以上をもって検討事項を終了させていただき、事務局のほうに進行をお返ししたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の議事と資料を皆様に確認していただきホームページに掲載できるように進めていきたい。</li> <li>・次回は11月30日（水曜日）午後3時から5時までの開催予定。</li> </ul>